

神奈川県立岸根高等学校 令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

令和8年3月11日(水)15:50～ 岸根高等学校会議室

<出席者>

学校運営協議会委員(敬称略)

長島 由佳(すこやかサークル会長)、太田 早織(神奈川大学人間科学部助教)、長谷川 樹生(篠原幼稚園園長)、
丹羽 滋子(マーマシのはら保育園園長)、望月 選(F・マリノススポーツクラブ理事)、奥山 恭子(岸根高等学校
PTA会長)、久祢田 啓嗣(岸根高等学校校長)

職員

森 知都(教頭)、久保 裕紀(カリキュラムG総括)、菊本 巨孝(キャリア支援G総括)、
森 直樹(サポートGリーダー)、加藤 博信(生活支援G総括)、田口 和忠(地域連携協働G総括)、
川崎 陽香(学校管理運営G総括) ※G = グループ

<欠席者>

濱崎 利司(篠原中学校校長)、小澤 孝之(篠原西小学校校長)、三田 敏幸(岸根町内会長)
三上 実(副校長)、横溝 賢治(事務長)

(1) 開会

① 校長挨拶

「学校運営協議会の設置に関して、神奈川県は全国的に進んでいる。学校外の方の意見を積極的に取り入れるという趣旨をふまえ、忌憚のないご意見をいただきたい。」

② 会長挨拶

「様々な目で岸根高校を見て、岸根高校がより良くなるような意見を述べたい。」

(2) 協議事項

① 令和7年度から4か年の学校教育目標について(確認)

② 令和7年度学校教育目標まとめについて

各グループからの概要説明

○カリキュラムG 久保総括教諭より

・目標①について

「長期休業中の講座を受講している生徒が増えている。」

・目標②について

「研究授業を通し、授業の質を上げることに取り組んでいる。それが最終的に生徒に還元できるようにしたい。」

○キャリア支援G 菊本総括教諭より

・目標①について

「総合的な探究の時間において、教員だけでなく地域の企業や団体に協力をさせていただき、有意義な学びの場を設定することができた。今後も地域の様々な資源を活用し、生徒の自己実現をサポートしていきたい。」

・進路指導に関して

「多くの生徒が大学へ進学している。一般入選抜の割合が徐々に増えており、適切な指導が求められる。」

○サポートG 森教諭より

・体育祭、文化祭について

「行事後のアンケートでは、9割の生徒が満足をしたという結果が得られた。生徒主体な行事を作る上で、生徒に役割を与えたことが要因ではないか。今後、分教室との交流も進めていきたい。」

・部活動について

「部活動の加入率は昨年度より微増している。CLUB+1など、部活動を通して地域と関わる機会を作れたことは非常に大きく感じている。」

○生活支援G 加藤総括教諭より

・生徒指導、教育相談について

「前年度と比べ、指導件数が増えている。また、教育相談についても件数が増えている。外部人材を有効的に活用しながら、担任が一人で抱えないような体制を整えていく。」

○地域連携協働G 田口総括教諭より

・1年間の目標①「振り返り」について

「全体で振り返りを作る時間を作ることが難しかった。次年度以降は、ボランティアをする意義を生徒に伝える場面を設定したい。」

・1年間の目標②「情報共有」について

「ホームページでの情報公開など、開かれた学校を実現できるように取り組んでいる。」

○学校管理運営G 川崎総括教諭より

・目標①「環境整備」について

「電気のLED化など、環境の改善ができた。次年度以降はオフィス改善の一環で職員室の環境が変わる予定である。」

・目標②「防災意識」について

「防災避難訓練を年2回開催した。第2回の訓練ではぶれすとほいくえんと合同で開催した。町内会の方との調整ができなかったため、次年度以降は町内会との連携をできるようにしたい。」

・目標③「職員の事故・不祥事防止」について

「コンプライアンスに関する自己不祥事防止研修を年3回実施した。職員の人権に関する研修も行った。今後も研修を継続して行う。」

(3) 質疑応答・意見交換

○神奈川大学 太田委員より

・カリキュラムGへの質問

「長期休業中の講座はどのような手順で申し込みを行っているのか。」

→久保教諭「Google Form を用いて申し込みを行っている。」

「講座を受ける生徒の動機はどのようなものか。期末試験の点数が悪いから受ける生徒はいるのか。」

→久保教諭「自分の力を伸ばしたい生徒が大多数である。」

「より多くの生徒に参加してほしい。受講する動機や目的別の講座を用意するなどを行うと、きめ細やかな指導につながるのではないか。」

・サポートGへの質問

「体育祭、文化祭についてどれくらいの期間を設けて生徒の気持ちづくりを行っているのか。」

→森教諭「体育祭に関しては、1ヶ月前には準備を開始している。特に、応援団パフォーマンスについては4月下旬から準備を始めている。文化祭は、2ヶ月前から準備をしている。企画に関しては、セレクションを行うなど、生徒のやる気を出させる工夫をしている。」

「動機づけが非常に重要なので、引き続き取り組んでいただきたい。」

○長谷川委員より

・カリキュラムGへの質問

「講座数が減少した要因はなにか。」

→久保教諭「夏休み中の講座であるため、部活動指導や休業などが重なったと考えられる。」

→菊本教諭「キャリア育成型講座に関しては、教員個人に依存してしまう。持続可能な形で残すことが課題である。」

「授業評価について、2回目の方が数値が低くなっているように見える。」

→久保教諭「教科によってばらつきがあるので、次年度に向けて改善していく。」

○丹羽委員より

「行事等に主体的に関わることが非常に重要である。一方で、全員が主体的に取り組めているのかは疑問が残る。行事が苦手な生徒はいるはずなので、その生徒に対してどのようにアプローチしているのか。」

久保教諭→「授業面では、各教科で主体的に取り組む態度を育成する取り組みを行っている。」

「反省はできるが内省ができない若者が増えているように思う。失敗する機会を多く作ってあげられることが重要である。失敗を恐れない生徒を育成してほしい。」

○望月委員より

「部活動に加入する生徒が多いのは素晴らしい。地域との連携などを通して、多くの経験を積ませることで自己実現につながるのではないか。サークルアクションで交流する中で、生徒の探究の答えが SNS に辿り着くのは難しいと感じている。自分の目で様々なことに触れることが重要である。」

○奥山委員より

「勉強に関しては、塾に行っている生徒も多いようである。キャリア育成型講座に関しては、積極的に受講してほしいと思う。」

○長島委員より

「コロナ禍を経て、自分の悩みの伝え方が分からない生徒が増えている。職員同士のコミュニケーションを密に取ることが生徒にとっては重要だと考える。消極的な生徒にどうアプローチしていくかが重要である。」

(4) その他（連絡事項）

特になし

(5) 閉会

校長より

「長い目で学校の教育活動、生徒の成長を見守っていただきたい。」